

科目名		授業形態	担当教員名	
運動障害性構音障害Ⅱ（各論）		講義	太田 信子・椎名 英貴・前川 圭子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
発語失行の診断・評価・訓練・予後について理解できること、脳卒中によって生じる発声発語の障害の特徴・評価方法・治療手技を理解できること、発声器官の解剖・生理と、音声障害を引き起こす疾患について理解し、音声障害の発生機序を理解できること、音声機能の評価・検査法及び音声治療法を修得することを目的とする。				
授業の到達目標				
発語失行の評価を行うことができる。訓練法を選択することができる。発声発語器官の正常運動とその病的な運動を区別することができる。脳卒中によって生じる発声発語障害を評価し、治療手技が選択できる。臨床症例の喉頭所見や検査データから音声障害の原因を捉え、最適な音声治療法が選択できる。				
授業計画				
回	内容			
1	発語失行の定義、診断、評価		(太田)	
2	発語失行の訓練、予後		(太田)	
3	評価：評価の考え方		(椎名)	
4	評価：評価実習（音声、構音、プロソディ）		(椎名)	
5	治療：治療法の選択（姿勢）		(椎名)	
6	治療：治療法の選択（発声）		(椎名)	
7	治療：治療法の選択（構音）		(椎名)	
8	発声器官の解剖・生理		(前川)	
9	無喉頭音声		(前川)	
10	音声障害の評価・検査の実施方法		(前川)	
11	音声障害の評価・検査結果の読み取り方		(前川)	
12	音声障害の原因疾患（1） 声帯の器質的疾患		(前川)	
13	音声障害の原因疾患（2） 声帯に著変を認めない疾患		(前川)	
14	音声治療概説		(前川)	
15	音声治療実習		(前川)	
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	前川50%（資料をみなくても音声障害の評価、原因、治療法についての解答ができる）		
レポート		椎名35% 太田15%		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	試験は持ち込み不可			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
言語聴覚士のための音声障害学	大森孝一		医歯薬出版	
新編 声の検査法	日本音声言語医学会 編		医歯薬出版	
言語聴覚療法シリーズ9 改訂運動障害性構音障害	熊倉勇美		建帛社	
標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版	藤田郁代 監修		医学書院	
脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版	竹内愛子 他		協同医書出版社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				